

機器分析

科学分析支援センター 中村 市郎

今回で11回目となるサマースクールを去る8月21日(月)科学分析支援センターで開催した。今回は、文科省・科学技術振興機構のサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)の一環として行われた。このSPPは4月から来年の1月まで毎月1回、「高校化学でわかる先端的化学研究の今」と題して、講義と実演および実習を行っているものである。

科学分析支援センターでは「機器分析」と題して、次の五つのテーマについて実習を行った。

「高分解能走査型電子顕微鏡によるケイソウ類の形態観察」

「核磁気共鳴吸収装置による有機化合物の構造解析」

「赤外・ラマン分光装置による高分子材料の定性分析」

「単結晶 X 線回折装置による結晶構造の決定」

「熱分析によるベンゼンとナフタレンの混和性」

当日は SPP の主担当者である永澤明教授より、この教員研修の主旨の説明と講師の紹介がなされ、続いて主催者として、廣瀬卓司科学分析支援センター長より歓迎の挨拶がなされた。その後、参加者 9 名は各々希望する先端分析機器に分かれ、物質の構造や性質を調べる分析実習を行った。X 線解析や電子顕微鏡の実習では、結晶構造や物質表面が視覚的に捉えられ、教科書では得られない経験をしたと好評であった



廣瀬センター長の挨拶



SEM の操作実習